

「自分らしい生き方」 を創る3ステップ

～あなたにベストな1日の使い方



Hisanao

「自分らしい生き方」を創る3ステップ ～あなたにベストな1日の使い方～

あなたは、何のために働いていますか？

高校生や大学生の方は、何のために勉強していますか？

今回は、人類が最も多くの時間をかけてきたにもかかわらず、未だに正解のない問題。

働くとは何か。人生とは何か。そして、幸せとは何か

この永遠のテーマについて、何千年も前の哲学者たちに負けないように、一緒に考えてみたいと思います。

私は、英語と世界に加えて、この人生についても、みなさんと同様に、一生懸命考えたり、悩んだりしてきました。

そして、その気づきを、ブログやエッセイ、そして実は小説などでも、ずっと言葉にしてきました。

そのため、今回は、私がこの一年間で一歩ずつ形にしてきた、

- ◆こう考えると働くということが全く違って見える。
- ◆本当の意味で、自分の生き方を見つけられる。
- ◆そして、一日一日の新しい使い方に気づける。

そんなアイデアをお伝えしたいと思います。

学生の皆さん

たとえ日本で一番、一日一日を充実して使うことができても、びっくりするぐらい一瞬で、社会人になる日は来てしまいます。

そして、同じ働く若者の皆さん

働くってこんなに大変だったんですね。とにかく大きく高く飛ぼうとしてきた学生でしたが、心も、身体も、顔も、どんどん固く、小さくなっていくのが、この一年間止まりませんでした。

そんな、たった25年ほどですが、毎日必死に生きてきた私が、今アウトプットできることをここに残します。

ぜひこの機会に、「生き方」について、新しい視点で考えてみて下さい。

著者ブログ：[「一歩世界へ ～英語と感動のある人生へ～」](#)

著者ビデオ：[TOEIC満点の無料英会話講座（YouTubeチャンネル）](#)

「自分らしい生き方」を創る3ステップ ～あなたにベストな1日の使い方～

=====はじめに=====

今の私が見つけた、自分の生き方を見つける3つのヒントをお伝えする前に、なぜこの記事を書いたのか簡単に説明させて下さい。

私には一つ、**気になっている社会問題**があります。

社会問題は、人により全く興味がなかったり、命をかけてでも変えようとするもの。

また、どちらも心から正しいと信じて、全く正反対の行動をしたりと、非常に面白いと思うのですが、私が気になっているのは、

「働くことができない」若者がどんどん増えている問題です。

これは、「内定が取れない」などとは全くの別の話です。

- ・ 会社に新卒として入れてもらっても、何もやる前にすぐ辞めてしまう。
- ・ 会社のために働く人生なんて嫌だ。満員電車が嫌だ。サラリーマンなんて社畜だ。社会の歯車になりたくない。
- ・ など、働くことや会社に対して、ネガティブな考えだけが染みついている。
- ・ 働かなくても稼ぐ方法や、自分だけが楽できる生き方、そして逃げる方法ばかり探している。

こんな「働くことができない人」が、非常に多くいるという問題です。

私のブログやビデオをチェックしてくれている人には、大学生や留学生など、英語や世界を知りたい、そして、その世界で働きたいとぼんやりでも夢見ている人が多くいます。

ぜひ同じ志を持つ仲間として、道を間違えないように、私が見つけたヒントをここに残しておきます。

===自分の生き方へのヒント①=====

「好きなこと」の本当の意味

=====

社会とは、与える側と、受ける側の、2タイプで構成されています。

人は、何かを与え、何かを受けて生きる。それを機能させるのがお金です。

社会人になるとは、「与える側の人間」になるということです。

日本では、社会に出るまでは、与えなくても、受けることができます。

食べ物。住む場所。教育。医療。様々な社会からの保護。

当たり前ですが、自由で、楽しくて、楽勝です。

けれど、それら全てを受けることができるのは、親や社会によって、それを与えてくれる側へ「お金」が流れているからです。

人間は、何かを「与えて」お金をもらう。そのお金で何かを「受けて」生きることができる。その「受ける」が主要な生活が、社会に出る前です。

しかし、社会では、年と共に人の役割は「受ける側」から「与える側」に変わっていきます。人は年を取り、寿命があり、次の世代が生まれてくるので、当たり前です。

そのため、受ける側の学生が終われば、与える側の社会人になります。

人間であり、社会で生きる以上、当然のことです。

ここで、「嫌だ、ずっと受ける側がいい。仕事っていう与える側は、大変だから」と、社会から逃げて、なんとか受ける側でい続けようとする人間が増加しているのが、この問題です。

個人の自由？

不正な受ける側が増えれば増えるほど、与える側の負担が増え、社会はより一部の人たちに頼らざる負えません。

働く側なのに「与えず」、働いている人から「受ける」、時には「奪う」のみでは、完全な不正です。

さらに、きちんと与える側になるために、親や社会は、20年以上のあらゆる生活と教育、成長を、次の世代に「受けさせて」きています。

働かないのは、ゼロではなく、マイナスです。

さてここで、世間ではどんな考えが一般かを見てみます。

ほとんどの自己啓発本での「正解」で、今の世代をまさに象徴する考えがこれです。

◆好きなことをやる◆

- ・たった一度きりの人生。
- ・夢をあきらめたかわいそうな大人になるな！
- ・会社じゃなくて自分のために生きる。
- ・一生「雇われ」でいいのか？
- ・税金を正直に払うやつは馬鹿だ。
- ・サラリーマンなんて社会の奴隷だ。

好きなことをやるのが幸せ。それは誰にでも理解でき、明らかな「正解」です。

そのため、もしすでに、好きなことを仕事にして生きられているのなら、素敵だなと思います。

けれど、まだ働く前から、これが正解で、これができなければ「負け」だと思い込むため、大変な間違いが起こります。

そうなる前に、一つ大事なポイントを考えて下さい。それは、

あなたの好きなことは、「与える」ですか？

音楽が好き。だからミュージシャンになりたい。

映画が好き。だから映画監督になりたい。俳優になりたい。

野球が好き。だから野球選手になりたい。

英語や海外旅行が好き。だから海外と関わる仕事がしたい。

ゲームやエンタメが好き。だから、そのビジネスがやりたい。

子どもが好き。だから、小学校の先生になりたい。

好きだと感じること。

それはあなたの生き方を見つける際に、非常に大事な軸です。

しかし、それが、「受ける側」として好きなだけなら、それはただの「消費者」です。

お金を払って海外に行くことは、誰でもできます。

お金をもらって海外に行くことは、本当に大変なことです。

お金を払ってスポーツや音楽をすることは、何も考えず楽しいことです。

お金をもらってスポーツや音楽をすることは、ほんの一部にしかできません。

「受ける側」としてなら、誰でも何でも、好きだし、楽しいし、幸せです。

その「与える」と「受ける」の概念を持たず、
「一度きりの人生、楽しい夢を見続けて、好きなことをやるんだ」
これしか頭にないため、この大きな問題が起きていると思います。

本当に価値のあるものを社会に与えるためには、大抵の場合、何百人、何千人という「組織」が必要です。

そのためには、朝早く起きて満員電車に乗り、組織の様々なルールを守り、組織で何年も何十年も前から、「与える」を実践してきた上に使われながら、自分も与えるを身に付けていく必要があります。

その全てが、「受ける」しか頭にない人には、「こんなはずじゃなかった」と感じるのは当然です。

もちろん、組織に入らなくても与えるができる人もたくさんいます。

スポーツ選手やアイドル、歌手なら、若い方が有利な場合もあり、人に与える喜びや感動、興奮のレベルも、場合によっては一人で一組織に勝つこともできます。

それは、人間にとって、「顔」や「身体」が与える価値が、とても大きいからだと思います。

「頭」を使った与えるを一人でできる人もいます。

起業家や小説家などです。

けれど、ずば抜けたごく少数を除いては、「ビジネス」での近道はなかなか難しいと考えています。

それが本当に「与える」なのか。

本当に社会に価値のあることを与えてお金を得ているのか。

詐欺までは行かなくても、グレーゾーンやマルチ、誰かを騙したり、困らせたり、損をさせていないか。

そこを突き詰めていくと、「成功」している若い人の「方法」やいくつものベンチャーも、首をかしげるものが本当に多いと私は感じています。

綺麗ごと言ってたら儲けられない？

そんな人にも、今の私が信じる、生き方のヒントを考えてもらえたらと思います。

===自分の生き方へのヒント②=====

一番大切な自分への質問



あなたが、自分らしい働き方、そして自分の人生を見つけるために、最も大切な質問をします。

それは...

あなたが喜ばせたい人は誰ですか？

誰が喜んでくれるのが、あなたにとって最も嬉しいですか？

ゆっくりと考えてみた上で、続きを読んで下さい。

あなたが心から喜ばせたい人。

それによって、働き方や生き方が決まると思います。

すぐに会社を辞める人。

働くということから逃げ続ける人。

働く人を馬鹿にする人。

彼らに共通するのは、

この喜ばせたい相手が「自分」のみ

だということです。

自分が楽しいかどうか。

「与えて」もらえるかどうか。

自分を喜ばせるためのお金が手に入るかどうか。

これしか頭がないから、社会に与える側なんて無理、といつまでも誰かからもらいたがるのです。

もちろん、誰かがその分大変な思いをしているということを、気づきもしません。

一方、おそらく一番多い答えが、「家族」だと思います。

これは、ヒント①の「好きなこと」より強力です。

全く好きなことでも、楽なことでもない。

意義も感じないし、つらいしきつい。

それでも「家族」のためなら働ける。

この「喜ばせたいのが家族」という生き方は、最も強力、時に無敵になると思います。

父や母になると、人間はがらりと変わるようです。

これは、「喜ばせたい相手が、自分を超えて家族に広がった」、

多くの人にとっては、「初めて他人のために生き始める」からだと思います。

働き方や生き方を決めるのに、この「喜ばせたい相手」が誰かが、極めて重要になります。

ここで、少し自分の周りを超えて、「喜ばせたい相手」がいるかどうかを考えてみて下さい。

- ・ 子供たち
- ・ お年寄り
- ・ 弱い人たち
- ・ 貧しい人たち
- ・ 頑張る人たち

本当に心から、「喜ばせたいんだ、変えたいんだ」、と思えるものがある人は、

「志」が様々な形で伝わってきます。

逆に、結局は自分だけが楽しみたい、金持ちになりたいとだけ考えて、その手段として、例えば楽しい「バンド」をしているだけのグループでは、歌詞はからっぽだし、すぐに消えていきます。

どんなビジネスも同じです。

結局喜ばせたい相手がほぼ自分たちのみなら、それは「金儲け」には成功しても、いらぬビジネスです。

もちろん、欲望というのは人を動かす上で、非常に重要なものです。

私もビジネスマンですし、アメリカ思考が強いので、「お金を儲ける」ことが悪いなんてもちろん言いません。

けれど、大切なポイントは、

他人を喜ばせることで、自分も喜べる人間かどうか。

この見極めが、あらゆる「価値」に通じると思います。

最後に一つ、気を付けてもらいたいのが、

目の前の人を喜ばせられなくて、途上国や、国の未来を喜ばせることはできません。

自分にずっと与えて喜ばせてくれた両親に気づきもせず、

自分はこんなちっぽけな仕事してらんない。

どっかの国に行って、なんかでっかいことをやる。

そのための奨学金制度とか、なんかお金や国籍をくれるパートナーいないかな。

こんな考えで、すぐ社会人を辞める人が目に余ります。

自分を育ててくれた両親、祖父母、親戚、そして実は社会。

まずは彼らに、仕事を通じた社会貢献や、仕送り、頑張る姿や成長。

社会には税金や価値を通して、まずは何か「お返し」をする。

それを達成できて初めて、さて次は誰を喜ばせよう、と進んで行ってください。

なんでもかんでも、「なんかおかしくない？」と否定するだけの人生にはならないでください。

社会、会社、大人、教育、政治、日本、世界...

「なんかおかしくない」が当てはまらないものは、この世にありません。

まずは、与えてくれてきた人々に気づき、感謝する。

次に、与えられていた20年前後で、自分は何を与えることができるようになったのか、
大変でも好きになれるものは何かを考える。

そして、まずは一番近い両親、そこから祖父母、そのまま少しずつ、喜ばせられる人の輪を広げていく。

それが、自分が手に入れることだけを考え、自分のためだけに周りを使い、逃げ続ける人たちより、

結局はあなたの「幸せ」を全く違うものにします。

大変ですけどね、与えるのも、喜ばせるのも。

けれど、それに何かを感じる心を持っている人だから、本のように長いこの文章も、ここまで読んでくれているのだと思います。笑

与えてやりましょうよ！

この大変な社会に、次は私たちが。

===自分の生き方へのヒント③=====

喜ばせたい人に、与える手段が、「仕事」

=====

①与える大変さが加わっても好きなもの、を見つける

②自分以外に喜ばせたい人を考えてみる

そして、最後に、その②喜ばせたい人へ、①与えるを行う手段が、「仕事」です。

具体的に考えていきましょう。

もしあなたが「営業」ならば、まずは①自社の商品やサービスを好きになる必要があります。

売ろうとしている人が「こんなもの…」と思っているものを、誰が買いますか？

確かに、明らかな粗悪品でも売りさばく「テクニク」を持つ輩もいますが、それは自分らしい生き方ではない！と自然と思える人がたくさんいることを願います。

次に、②喜ばせたい相手は、お客様ですよ。

顧客志向やマーケットインなど、ビジネス用語はいくつもありますが、シンプルにこう考えるのが一番わかりやすいと思います。

そして、①好きな商品やサービスを通して、②お客を喜ばせるための手段が、③営業、となります。

なかなか②お客様は厳しいですし、新規でいきなり喜ばせたいなんて思えないから、営業は一般的につらいと感じるのかもしれませんが。

SEの場合も同じです。

単に①プログラミングやプロジェクト管理が好き、というだけでは続かないと思います。

企画でも要件定義でも、外部設計、内部設計、製造、テスト、保守運用でも、どこかのフェーズを担当しようが、②お客がそのシステムを使う、ということを忘れては、やはりダメですよね。

開発系やR & Dも同じ。

①技術が大好きなのはわかります。けれど、②結局誰かを喜ばせているから、研究や製造だけでも飯が食えるんだ、ということを忘れてはいけません。

この徹底的に技術力のみ焦点を合わせ、「顧客」を忘れていたのが、日本企業が束になってもアップルやサムスンに勝てなくなった理由だと言われています。

私が形にした、この「喜ばせ相手」とその「手段」という考え方は、国のレベルから、個人の幸せにまで、全てに当てはまると思います。

私の「人事」という仕事も同じ。

① 人事は、自分の会社が好きでなければ、いい仕事はできないと思います。

※今の私は、自分が気づいた人生論を言葉にしているので、人事としての私の働き方を検証するのはなし。笑

そして、②喜ばせたい相手は、その会社で働く社員です。

だから、①好きな会社のために、②一生懸命働いてくれる社員をサポートする方法として、

③ 戦力になる仲間を見つけてきて、育て、しっかり評価やサポート、可視化をする。

そして、会社の経営に合わせて、適材適所で登用し、一人一人にも輝いてもらう。

このような手段として、人事の仕事があるのだと思っています。

(採用なんて人事の仕事の3%ぐらいなので、もっと人事のことをみなさんわかってもらえたらなと思います。笑)

そしてここで、私が何より語れる「英語」が出てきます。

「英語が使えないから辞める」

「日本つままない。あの国に戻りたい」

英語でおしゃべりはできる帰国子女や、何も考えてない留学生には非常に多いケースです。笑

けれど、英語はあくまで、「広げるツール」です。

商品を通して喜ばせたい相手が世界にいるから、営業に英語がくっつきます。

技術を通して喜ばせたい相手が世界にいるから、技術者も英語が必要になってきます。

どんな仕事をしていても、これからは世界を喜ばせていく必要があるから、英語が「必須」となってきたのです。

英語を話すと楽しいから。

それだけが理由の人は、「おしゃべりが楽しいから」と言っているのと同じ、「受ける」しか頭がない人たちになってしまいます。

日本の社会にお返しをせずに逃げて、「受ける側」として、誰かのお金で外国をふらふらするために英語が使われていたら、本当に英語がかわいそうです。笑

どれだけ「ネイティブっぽい発音」ばかりに力を入れても、アメリカにいる不良の小汚い英語の方が、「ネイティブっぽい発音」になります。

ぜひ、「英語を人を喜ばせるため」に使って下さい。

これは私の人生のテーマでもあります。

このように、自分を超えて、少しずつ喜ばせたい輪を広げていくこと。

その過程で、じゃあ喜ばせるためにはどうするか、と手段である「仕事」に気づいていくことができます。

喜ばせたい相手が自分だけだと、結局仕事から逃げ続けることになると思います。

家族や仲間、そして少しでも誰かのために、頑張れる人が増えてほしいなと思います。

=====最後に=====

以上、本のように長くなってしまいましたが、私の気づきとそのアウトプットが、少しでもあなたも何か気づくヒントになったなら嬉しいです。

①社会人とは与える側になること。

与えるは大変なことですが、それでも好きになれるものを、まずは何でもやってみることで、見つけようとする。

②自分以外に喜ばせたい人はいるか、自分に正直に聞いてみる。

家族、親せき、そして社会のどこの人でも、「喜ばせたい、変えたい」と思える人を探す見方で、毎日を生

きる。

③そして、喜ばせたい人に、与える手段として、仕事を見る。

100%は無理です。けれど、少しでも、この仕事をどうやれば変わるか、誰が喜んでくれるのか、何を生めるのか、と考えてみる。

この3ステップが、私が一年間社会人を経験しながら創り上げた、「働く」、「生きる」、そして「幸せ」に対する姿勢です。

最後に、私の3ステップの結果が、このブログにもつながっています。

①まず、幸せなことに、私は「与える」自体がかなり好きなタイプのようなようです。

自分が気づいたこと、考え、情報、知識、経験、知恵、アイデア、ネットワーク...

それらを広めることで、誰かも「そうなんだ!」と気づいてくれたり、一緒に考えるきっかけになれば、そんな楽しいことはありません。

だから、英語や世界、仕事でも生きる姿勢でも、私が誰かの役に立つ可能性のあるものは、これからもどんどんアウトプットしていきます。

②喜ばせたい人は、断トツで家族。次に、人一倍「仲間」を作り大事にするタイプです。そして、日本中、世界中の「素敵な頑張り屋さん」の力になりたい。

家族の話はもう散々してきましたが、うちの一族は必ず私が守っていきます。

そして、自分のサークルを作ったり、一緒に活動する身内はとにかく喜ばせたい。

さらには、まっすぐで、世界に興味があり、逃げずに頑張る皆さんには、「日本を世界に連れて行く」という大志のもと、できることは何でもやっていきたいと思い、ずっと活動しています。

(さすがにここまで読み続けてくれる方は、知っていると思いますが。笑)

③最後に、その手段の一つがこのブログです。

他にも、ビデオや、社会人サークルであったり、エッセイや小説、本という言葉を通して、体一つから始められることは、何でも挑戦してきました。

そして、これからも、社会に与えられるものを増やすため、自分自身を鍛え続けながら、喜ばせたい様々な人たちに、たくさんのルートで何かを生みだしていきたいと思います。

ここまで読んでいただき、本当にありがとうございました。

社会人一年目の、一つの締めとさせていただきます。

これからも末永く、一緒に頑張っていきましょう！

2013年3月9日